



公益財団法人 愛知県文化振興事業団

2019年4月10日(水)
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ
☎ 052-955-5506

<Press Release>

報道各位



(C)荻原楽太郎

かもめマシーン 『俺が代』

平素より愛知県芸術劇場の活動につきまして、ご理解・ご支援賜りありがとうございます。

さて、見出しのとおりプレスリリースを送付いたします。

ご多忙中恐縮ですが、ご一読の上、ご取材等いただければ幸いです。

お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(山本)

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 ☎ 052-955-5506 Fax 052-971-5541

E-mail: mkt@aaf.or.jp <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

平成の終わり／新元号の始まりに、ひとりの俳優が 「身体」を使って憲法を「読む」異色のソロ・パフォーマンス。

演劇カンパニー「かもめマシーン」は、2019年4月19日（金）～5月6日（月・祝）まで、愛知・愛知県芸術劇場小ホール（名古屋）／東京・早稲田小劇場どらま館／沖縄・アトリエ銘苺ベース（那覇）という3都市を巡る「『俺が代』さよなら平成ツアー」（演出：萩原雄太）を実施します。



「憲法にふれる」をテーマに、日本国憲法や、文部省（当時）による教科書『あたらしい憲法のはなし』、そして尾崎行雄、芦田均などの演説をテキストとして使う「俺が代」（おれがよ）は、ひとりの俳優が「身体」を使って憲法を「読む」、異色のソロ・パフォーマンス。

改憲／護憲という二項対立に囚われることなく、憲法やこの社会についての問いを描き出そうとする本作は、2015年の初演からこれまで、銀座・若山美術館における屋上公演や、ST スポット、SCOOL、そしてルーマニア・クルジュで開催される演劇祭「Temp d'Image Festival」やブカレストの劇場「Centrul de Teatru Educațional Replika」などで上演を積み重ねてきた。

今回のツアーは、平成最後の4月、そして新元号最初の5月という時代の転換点をまたいで行なうもの。

この時期に一度、立ち止まって憲法を見つめること—それを俳優の身体を通したパフォーマンスとして共有することで、観客ひとりひとりが、過去のテキスト群を現代社会に生きる自分達のストーリーとして引き寄せ、これからの未来に思いを馳せる体験を、3都市を巡り立ち上げていく。

■かもめマシーン初の国内3都市ツアー

今回のツアーで会場となるのは、萩原が第13回AAF戯曲賞を受賞した『パブリックイメージリミテッド』（2015）を上演した名古屋の愛知県芸術劇場、演出家の萩原雄太、俳優の清水穂奈美 両名とゆかりの深い早稲田大学の劇場「早稲田小劇場どらま館」、そして今年度の提携カンパニーに選出された沖縄・那覇の銘苺ベースの3ヶ所。

海外ツアーを経て、あらためて日本国内の観客に提示する機会を得たことで、よりダイレクトに今日の社会と演劇の可能性を接続させ、進化する「俺が代」にぜひご期待ください。

■国内外で評価を受けた、独自性が光るパフォーマンス

舞台中央にひっそりと立つ一本の木には水が滴り落ち、俳優がたったひとり、水を汲み上げるかのように言葉と向き合うミニマルな舞台。しかし、そんな舞台上で俳優が発話するのは日本国憲法や演説の数々。ルーマニアなど海外でも上演され、その独自性が高く評価されました。

“タイトルに含まれた「俺」とは、つまり、日本人の観客のことなのだ。日本人の観客は、そうして自分の身にひきつけて、主役である自分とともにこの舞台と対峙することになろう” 木村覚（美学研究者、ダンス批評。日本女子大学人間社会学部文化学科准教授） http://artscape.jp/report/review/10132546_1735.html ”

“「日本国憲法」は、個人による発話として「上演」されねばならない—ここに、本作の優れてクリティカルな政治性がある” 高嶋慈（美術批評・京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員） http://artscape.jp/report/review/10148069_1735.html ”

公演概要

Introduction

「改憲／護憲」という二項対立ばかりが議論されている。でも、私たちは憲法について何を知っているだろう。憲法の条文を読んだことがある人は多いはず。そのまま丸暗記をしているかもしれない。

じゃあ、私たちは憲法を「読んだ」ことはあるだろうか？

「憲法にふれる」をテーマに、日本国憲法や、文部省（当時）による教科書『あたらしい憲法のはなし』、そして尾崎行雄、芦田均などの演説をテキストとして使う『俺が代』は、ひとりの俳優が「身体」を使って憲法を「読む」異色のパフォーマンス。

この作品を見ても、9条について何もわからない。国民の権利についてもわからない。きっと、天皇についてもわからないだろう。

観客は、憲法を「読む」俳優を目撃するだけだ。それによって、日本国憲法は私たちのものだ、ということだけがわかるのだー。

<言語>

日本語（英語字幕付き）

<クレジット>

構成・演出：萩原雄太 出演：清水穂奈美

照明：千田実（CHIDA OFFICE） 美術：横居克則

舞台監督：伊藤新（ダミアン）

英語翻訳：西尾樹里

宣伝写真：萩原楽太郎 宣伝美術：藤井隆史 題字：木積凜穂

制作：清水聡美

票券協力：シバイエンジン

提携：アトリエ銘苺ベース（沖縄公演）

主催：かもめマシーン／愛知県芸術劇場（愛知公演）

共催：早稲田小劇場どらま館（京公演）

製作：かもめマシーン

作品動画（ルーマニア公演2017）：<https://youtu.be/xgeriZnEC88>

Schedule

愛知公演

4月19日(金) 19:30 ★アフタートーク有り

4月20日(土) 15:00

※4月18日(木) 18:00 高校生ゲネプロ無料招待あり

<会場>

会場 愛知県芸術劇場 小ホール

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

<チケット>

チケット発売中

- ・愛知県芸術劇場メンバーズ

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

- ・愛知芸術文化センタープレイガイド(地下2階) TEL 052-972-0430
平日 10:00-19:00 土日祝休 10:00-18:00 (月曜定休/祝休日の場合、翌平日)

- ・チケットぴあ [Pコード:492-923]

<http://pia.jp/> TEL 0570-02-9999

※購入方法によりチケット代金のほかに手数料が必要になる場合があります。

◆一般 2,800円(当日3,000円)

◆U25 1,000円

『俺が代』と『日本国憲法を踊る』セット券 5,000円(前売のみ)

※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書)

※3歳以下は大人1名につき1人までひざ上鑑賞可。席が必要な場合は有料。

※セット券は前売りのみ、愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス及び愛知芸術文化センタープレイガイドにて取扱い。

※車椅子でのご来場予定の方は劇場(TEL 052-971-5609)までご連絡ください。

※やむを得ない事情により内容、出演者が変更になる場合があります。

東京公演

4月27日(土) 15:00
4月28日(日) 15:00
4月29日(月・祝) 14:00 / 19:00
4月30日(火・祝) 15:00

<会場>

早稲田小劇場どらま館
〒169-0071 東京都新宿区戸塚町 1-101

<チケット>

◆一般 2,800円(当日3,000円)
◆学生 1,000円

沖縄公演

5月5日(日) 15:00
5月6日(月・祝) 15:00

<会場>

会場 アトリエ銘苺ベース
〒900-0004 沖縄県那覇市字銘苺 203番地

<チケット>

◆一般 2,000円(当日2,500円)
◆U25 1,000円

<チケット予約>

愛知公演：愛知県芸術劇場 チケットセンター
東京・沖縄公演：シバイエンジン

<お問合せ>

かもめマシーン

Mail : info.kamomemachine@gmail.com

取材のお申込み・問い合わせ：宣材写真提供や稽古場でのインタビューが可能です。

かもめマシーン制作部 清水聡美

Mail : info.kamomemachine@gmail.com

Web : <http://www.kamomemachine.com/>

Profile

■かもめマシーン

2007年より東京を中心に活動。カンパニー名はチェーホフ『かもめ』とハイナー・ミュラー『ハムレットマシン』に由来し、個人の身体と社会との関わりに焦点を当てた作品を上演。気功や太極拳を応用し、独自の身体性を構築している。

震災後の2011年8月、福島県双葉郡広野町の国道6号線路上で上演した『福島でゴドーを待ちながら』は、国内外の注目を集め、早稲田大学演劇博物館、ローマ市演劇記念館などでその記録が展示される。

第13回AAF戯曲賞、利賀演劇人コンクール2016優秀賞受賞。日本国憲法をテキストにした作品『俺が代』で、2017年ルーマニア国際演劇祭 Temps d'Image Festival (<http://tempsdimages.ro/editions/tdi-2017/despre/editorial/>)に参加。2018年、『しあわせな日々』でシアターコモンズ'18 (<https://theatercommons.tokyo/>)に参加。



萩原雄太 (はぎわら・ゆうた)

演出家、かもめマシーン主宰。早稲田大学在学中より演劇活動を開始。愛知県文化振興事業団「第13回AAF戯曲賞」、「利賀演劇人コンクール2016」、浅草キッド『本業』読書感想文コンクール受賞。手塚夏子『私的解剖実験 6虚像からの旅立ち』にはパフォーマーとして出演。2018年、ベルリンで開催された「Theatertreffen International Forum」に参加する。



清水穂奈美 (しみず・ほなみ)

俳優。かもめマシーン所属。早稲田大学第一文学部演劇映像専修卒業後、かもめマシーンをはじめさまざまな演劇作品に出演しているほか、ダンスパフォーマンス等にも参加おもな出演作に「俺が代」、「しあわせな日々」など。気功や太極拳等を取り入れ、“身体”に焦点をあてながら、「俳優という視座からの創作の可能性」を探っている。